

小野委員のインドネシア PIANC 国内部会設立総会の出席

インドネシアは、日本等の支援の下に 2016 年に PIANC 加盟を果たしましたが、その後の国内組織の整備が遅れていました。こもほど、2023 年 11 月 23 日にスラバヤ工科大学で開催された第 8 回海洋科学国際会議 (SENTA2023ⁱ) において、インドネシア政府海事投資調整庁 (CMMA) 海運・漁業・観光インフラ課長^{注 ii}であるラフマン・ヒジャット氏が PIANC の概要について説明した後、インドネシア国内部会 (PIANC-Indonesia) の設立を宣言しました。



写真 1：インドネシア部会設立宣言

この会議には、日本部会を代表して小野 PIANC 国際協力委員会 (CoCom) 委員及び土井インドネシア派遣 JICA 専門家が、またオーストラリア部会からはロン・コックス Cocom 委員が参加しました。

会議後、CoCom 委員立ち合いの下、PIANC インドネシアの理事会が開催され、国内部会の会長、事務局長の選出、理事等による今後の運営方針等に関する議論がなされました。

表-1 PIANC-インドネシア執行部

会 長	: Rahman Hidayat (CMMA)
副会長	: Ade Darnawan (Royal Haskoning インドネシア)
〃	: Widjo Kongko (BRIN : インドネシア国家研究イノベーション庁)
事務局長 :	: Velly Asvaliantina (CMMA)
会 計	: Khusnul SW (BRIN)

日本からは、PIANC アジアセミナー等の PIANC-Japan の地域活動や国内部会の責務と機能、財務運営の仕組みなど等について説明を行い質疑応答が行われました。

特に会員に拡大については、現在 PIANC 本部に確認されているインドネシア国内の会員は個人会員 3 名、学生会員 1 名、団体会員 3 団体に留まっていることから、改めて会員拡大の重要性を指摘したところでした。またロン・コックス委員からは、インドネシア国内での技術課題や関心事に応えるためのワークショップ開催の提案があり、理事会メンバーから、

①戦略的な港湾マスタープランの作成、②持続可能な航路の浚渫と維持、③防舷材に関する最新情報の収集・整理、ガイドライン改訂、④内陸水運航路の維持管理と運営、⑤再生可能エネルギーへの転換と港湾の役割、などのテーマが出されました。CoCom においては今後支援を検討してゆくこととしています。

インドネシアは、日本からの活

発な働き掛けもあって、2023年5月にオスロで開催されたPIANC年次総会に代表団を送る等2023年度に入ってからPIANC活動を活発化させてきましたが、今回設立された国内部会が今後の更なる活動拡大の拠点として、大きな役割を果たしてゆくことが期待されます。

(CoCom 委員 小野憲司)



写真2：PIANC インドネシア理事会